

このリーフレットをつくった

社団法人和歌山県青少年育成協会って？



次代を担う青少年の健全育成を図るため、様々な取り組みを行なっています。

また、県内すべての市町村に、青少年の育成活動を推進するために設置されている市町村民会議と連携しています。



こんなことをしています。

■少年メッセージ

中学生が日常生活の中での実体験などを通して得た自らの考え方や将来の夢を発表することにより、大人が今の中学生の考え方を深く理解するとともに未来を担う若い世代の育成を図っています。

■〈家庭の日〉運動の推進

毎月第3日曜日は〈家庭の日〉

家族みんなが温かく心ふれあう機会を持ち、明るく楽しく家庭づくりを進めるきっかけにと、和歌山県では毎月第3日曜日を家庭の日と定め、家庭の日などに優待券で協賛店舗や施設などで各種サービスが受けられることができる「家族ふれあい優待制度」を実施しています。

※詳しくは当協会のホームページで

■絵画作品募集

県内に在住または通勤・通学している小学生以上の方から、「家庭・家族」をテーマにした絵画を募集し、優秀作品は表彰するとともに「家庭の日」の啓発等に活用します。

《編集委員》

米澤好史 和歌山大学教育学部教授
室みどり 和歌山信愛女子短期大学名誉教授
田中いずみ 県教育委員会生涯学習課社会教育主事
谷口博司 那賀振興局地域振興部主任
上野悦子 和歌山市保育所管理課保育専門員
井上真希 県男女共同参画センターいぶるスタッフ

※このリーフレットについて、ご意見・ご質問等があれば下記までご連絡ください。

発行 平成24年1月 社団法人和歌山県青少年育成協会 〒640-8319 和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛9階
TEL:073-435-5236 FAX:073-435-5238
ホームページアドレス: <http://wpyda.org/> メールアドレス: wakatsu@cypress.ne.jp

※このリーフレットは、赤い羽根共同募金配分金を受けて作成しています。

■「家族そろって新入生」リーフレット作成

子どもと一緒に学んで育つ親になるためのリーフレットを作成し、県内の小学校入学前の年長年齢児童の保護者全員に配布しています。

〈平成23年版の声・感想〉が届いています。

- ◆チェックリストを子どもと一緒にやることにより、子どもの気持ちを理解する良い機会になりました。
- ◆子どもの気持ちや接し方について、改めて考えさせられました。
- ◆わが家のルール作り、生活を見直す良いきっかけになりました。
- ◆リーフレットを見ることで、改めて親子関係を見直すよい機会になりました。

その他いろいろ

■リレー式次世代健全育成事業

青少年の家で、様々な体験活動を通し、明日の青少年リーダーを養成！詳しくは当協会のホームページで！

他にも青少年のリーダーを育成する事業や指導者の資質向上のための事業、また、青少年団体の活性化など、いろいろな事業に取り組んでいます。



このリーフレットは、親子で小学校の環境にスムーズに適應できるよう役立てていただきたいと平成19年から作成し、今回で6冊目になりました。子どもへの関わり方で、「聞けばごく当たり前のことでも、そのように接していないことに気づく」、「今の時期だからこそ、大切だということに気づく」、「保護者と子どもの考え方の違いに気づく」、それらのことに一つでも多く気づいてほしいという想いで作成しています。これからの子育てのお役に立てばうれしいです。

家庭の日啓発促進事業

毎月第3日曜日は〈家庭の日〉

家族そろって新入生



この「家族そろって新入生」は、子どもも小学校入学にあたって、学校生活へのスムーズな適應に対し、おとうさん、おかあさんに特に大事にしてもらいたい〈こころ〉〈からだ〉〈まなび〉の3つの分野を取り上げました。

子どもが家庭の外に世界を広げ、急速に成長するこの時期は、親としても子どもの変化に驚き、とまどうことばかりだと思います。

おとうさん、おかあさんと子どもを応援するためにこのリーフレットを作成しました。家庭での教育やしつけについて、家族そろって考えてみてください。

仕事と家庭の調和を大切にし、家族がふれあう時間をたくさんとって、子育ての時間に喜びや楽しみを持てるようにしましょう。



社団法人和歌山県青少年育成協会

こころ

お子さんは自分自身のことを好きでしょうか？

家族そろって新入生



お互いを認め合うためのチェックリスト

お子さんにとって、わかりにくい質問があれば、わかりやすい言葉で説明してください。

チェックリスト まず、お子さん自身に、質問してみてください。お子さんが、「そうだ」と答えたものに○、「ちがう」、あるいは、「わからない」と答えたものに×をつけてください。

番号	○・×	チェック項目
1		わたしは、おうちにいるとほっとします
2		わたしは、じぶんはいろんなことができるとおもいます
3		わたしは、あそぶことが好きです
4		わたしは、おともだちにやさしくできます
5		わたしは、えほんが好きです
6		わたしは、小さい子やいきもののおせわが好きです
7		わたしは、あさ、おきたらいつも「おはよう」といへのひとにいます
8		おとうさん・おかあさんは、よく「ありがとう」といってくれます
9		おとうさん・おかあさんは、わたしのきもちをわかってくれます
10		おとうさん・おかあさんは、うれしいときいっしょによろこんでくれます

親子でチェック

次に、お子さんとの日頃の接し方について、チェックしてみませんか。

II あてはまるものに○、あてはまらないものに×をつけてください。

ぜひ、お子さんといっしょに、「こうしてる？」などと聞きながらやってみてください。

番号	○・×	チェック項目
1		子どもの話すことは、どんなことでも「そうだね」と、まず受け止めている
2		子どもの苦手なところは無理にでも克服させるようにしている
3		子どもといっしょに考えることを大切にしている
4		子どもを叱るときには、きょうだいや友達と比べている
5		子どもの得意な面を伸ばすよう心がけている
6		子どもが望んだことは、何でもそのとおりにしてあげている
7		子どもが悪いことをしても、まず子どもの言い分をしっかりと聞くようにしている
8		子どもがやる気がでないときは、「ごほうびをあげるから」と誘うようにしている
9		子どもがどんなことを考えているのか、いつもわかろうとしている
10		子どもが何かに挑戦するとき、先に正しいやり方を教えている

〈分析〉

Iは、○の数数を数えてください。IIは、奇数番号の○の数と、偶数番号の×の数を足して合計してください。

Iの○の数()+IIの奇数番号の○の数()+IIの偶数番号の×の数()=()

Iは、子どもの自己肯定感の強さをはかっています。IIは、子どもの自己肯定感を育むための良いかわりが奇数番号、そうでないかわりが偶数番号となっています。

単なる合計数で判断するのではなく、一つ一つの項目について、解説を参考にし、親子で話し合いながら、素敵な関係について考えてください。

子どもとの関係をふりかえり、子どものやる気につながる自己肯定感を育んでいきましょう！

1年後、お子さんが2年生になる前に、このチェックにもう一度、挑戦してみてください。

■合計が16以上：その素敵なかかわりが子どもの気持ちを受け止め、自己肯定感を高めます！

■合計が12～15：子どもと良い関係ができています。子どもの微妙な気持ちの変化にも敏感に！

■合計が9～11：子どもをしっかり受け入れてみましょう。子どもの笑顔が待っています！

■合計が5～8：子どもの立場に立って、子どもが嬉しいと思えるかわりを振り返ってみては？

■合計が0～4：子どもの思いに耳を傾けて、いっしょにいる感じ合えるやりとりを！

「今日ねえ、○○ちゃんがねえ、鉄棒にぶら下がれたんだよ。」

「○○君ねえ、つみきで遊んでいるときにゆずってくれたんだよ。」

「○○ちゃんはお絵かきがすごく上手なんだ。」

「○○君は走るのがすごく速いんだ。」 等々

子どもは友達のことを自分のことのように喜んだり、ほめたりします。

子どもが友達や学校、遊びのことなどを肯定的に見て、よかったこと、楽しかったこと、面白かったことをたくさん語ります。それは、家庭でも親がものごとを肯定的に見ることが多く、そのような話題が家族の中にあふれているからです。

自分のことだけでなく、周りのことまで肯定的にとらえられる子どもは自己肯定感も育っていると考えられます。そのお手本となるのがいつも身近にいる自分の親なのです。

小学校で子どもの様子を見てみると、

「とりあえずやってみよう。」と言っても、進んで新しいことに挑戦しようとする子どもが少ないです。自分が確実にできるものにしき意欲を示さないように思います。「すぐにできる？」「簡単にできる？」が合い言葉のようになっています。

この不安感、自信のなさ子どもたちだけではありません。保護者のみなさんにもありうることです。

いつも自分のこどもを他のこどもと比較していませんか。

自分の子育てに自信がないと、比較することで自分の子どもの良さを確認できないことが多いです。他の子と自分の子とをすぐに比較してしまう人は、子育てに対する不安が根底にあるといわれています。だから他のこどもの長所ばかりに目がゆき、自分のこどもの良さが見えにくくなってしまいがちです。

いつも比べられ、自分の短所を指摘されて育った子どもが、自分に自信を持てるでしょうか。比べることでしか評価されずに育った子どもが、素直に友達の良さを認め、受け入れることができるでしょうか。自分自身に自信を持っていないこどもは、いつも友達と比較して自分の置かれた位置や居場所を探そうになります。年齢が進むにつれてその傾向が強くなります。

子どもが自分に自信を持てる子育て、自己肯定感を育む子育て、

それには何より、おとうさん、おかあさん自身がお自身を好きであることが大切です。

わが子のいいところをしっかりとほめてあげてください。失敗したことを責めず、努力を認めてあげてください。

子どもさんのすべてをしっかりと認め、受け止めてあげてください。そのことで子どもは安心し、心が豊かに成長します。

こどものささやかな成長を敏感に感じ、それをこどもにしっかりと伝えることで子どもは自信をつけます。そうした自信は、困難にも立ち向かう心のエネルギーとなるのです。

チェックリスト I の解説

番号	○・×	解説
1		家庭に居場所があり、愛情に包まれていた証拠です
2		自分ではできるという思いが、新たな意欲ややる気につながります
3		遊びの中で人間関係など様々なことを学びます
4		心が満たされていると、周りにもやさしくできます
5		心の「栄養」を蓄えます
6		自分が大切にされていると、他者も大切にできます
7		「おはよう」「おやすみ」などの挨拶は、挨拶する相手を確認、相手から認められる大切な人間関係はくむ営みです
8		子どもの言動を認め、感謝の気持ちを伝えていくと、子どもも相手の気持ちを受け入れられるようになります
9		くじけそうになった自分を支えてくれるという安心感を感じます
10		喜びを共有してくれることにより、自己肯定感が育ちます

チェックリスト II の解説

番号	○・×	解説
1		子どもの話を共感的に聞くことにより、安心感を与えます
2		苦手を無理に克服させるより得意なものを伸ばすほうが、意欲や自己肯定につながります
3		親子の対話が生まれるし、多様な考え方を身につけることにもなります
4		比較して叱ることにより、劣等感をうえつける可能性が高くなります
5		やる気と自己肯定感を高め、苦手なことにも意欲的に取り組む契機となります
6		子どもの気持ちを受け止めることと、要求をすべて受け入れることは違います
7		子どもの言い分を聞くことにより、より深い自己反省がうながせます
8		報酬でやる気を引き出すと、損得で物事を判断したり、短絡的で攻撃的な人間に育ちやすいことが分かっています
9		わかろうとする姿勢が、こどもの成長を敏感につかむことになり子どもは間違いや失敗の中から多くのことを学びます
10		



家族そろって、入学への喜びと期待を

今、新入生にとってありがたい取り組みが始まるう
としてます。幼児教育から小学校教育へと、円滑に
移行ができるように幼稚園、保育所と小学校とが入学
を前に交流、連携に向けての対策を推し進めようと
しているのです。温かく見守られながら、「お兄さん、
お姉さんたちとの交流」「小学校ってどんな所か分か
ったよ」早く行きたいと入学への期待が高まってくるで

しょうね。

さて、家庭においては就学前にどんなことが求め
られるのでしょうか。「生活面で自分のことは人を頼
らずにきちんとできる、本当に助けて欲しい時には、
それを伝えられる」生活の自立を目指し、幼児期の育
ちの仕上げに努めましょう。

こどもが伸びる生活習慣づくり

睡眠

こころとからだを育てる



- 10時間程度のよい眠りで、脳とからだがつくられる
(大人の睡眠とは異なる)
- 昼間のイキイキ笑顔は、前夜のよい眠りから
- 成長ホルモンの多量な分泌は、静か・消灯が必要条件
(眠りを強くするホルモン[メラトニン]は、暗い所で多量分泌)
- 登校時間を確かめ、食事、排便を見通し起床時間を

食事

こころとからだをつくる



- 生活リズムの基本に朝食、夕食をおく
- 朝食は、学校生活のエネルギー
- 家族で楽しむ食事は、こころの自立のエネルギー
- こどもの食事は、将来の食を営む力となる

こんな注意も

- 目をあわせ、人の話をしっかり聞き、思いを言葉で
はっきりと伝えられるかの確認をしておきましょう。
- 時間的に、生活の流れを見通せる力を育てておきま
しょう。
- 依存から一歩一歩の自立の姿を、これまで以上の愛
情で支えましょう。



集団生活を楽しくする力づくり

運動

仲間と遊べる力



固定遊具で45分間座れる背筋力を



あいさつ・ルール

友達づくりの力



身近な大人がモデル!

- 集団生活へのよりよい適応条件は、上手なあいさつと
ルールを守れる力!
- 「できている!」「それでよい!」と認める言葉で自信を育
てる

こんなことも気をつけて

- 防犯ブザー・ゲーム機・カギなどのひもは、首
に絡む危険性大。
- ランドセルは、重くないですか? 必要なものだ
けを準備して。
- 親子で事前に通学路を点検して、危険な場所

では十分な注意を。

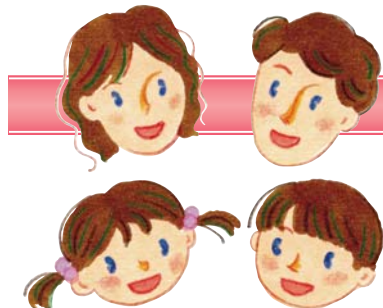
- 家庭での冷暖房は、学校での生活を考慮して。
- 和式トイレも使えますか?
- 利き手は無理に矯正しなくても大丈夫。
- 虫歯の治療も忘れずに。

まなび 親子で学ぶ楽しさ



こどもが小学校に行くことで世界が広がるように、おとうさん、おかあさんの世界もそれとともに広がります。物事を知ったり、わかったりする楽しさは、まず親が率先してみせることで、こどもに伝わります。実は、こどもの学習の一番の基本は、「まね」をすることなんです。

こどもにはことばで言うより、**手本を見せてあげましょう！**
いっしょにすることから**始めましょう！**



親の背中から

こどもは「大人になったら、おとうさんのようになりたい、おかあさんのようになりたい」と思います。

親の役割

こどもの目標、モデル、家族が安心できるより所

- 親は、経済力ばかりでなく精神的にも安心を与えられる存在です。
- 親が先生との信頼関係を築くことがこどもの成長に良い影響を与えます。

家族の“きずな”がこどもの発達・成長の土台となります！

親として、こどもの気持ちを受け入れることが、こどものやる気につながります！

幼稚園児や小学生を対象とした調査で、親や先生に大切にされていると感じているこどもほど、勉強やいろいろなことへのやる気が育っていることがわかっています。

もっとも効果的な学習方法は、親がお手本をしめすことです！

親のようすをじっと見ていて、親が使った言葉を、適切な場面で、見事に使うこどもをよく見かけます。一度も練習しなくても、間違えることなく学んでいるのです！

こどもを大切にし、いいお手本になることが、こどもの学びを支えます！



わが家のルールをつくろう

大切にしたいのは、こどもの生活リズムです。こどもと話し合って家族でルールをつくりましょう。簡単なルールでもいいので、一緒に決めたことをしっかり守るということの方がずっと大切です。

■ 起きる時間

時 分

朝ごはんはこどもの目覚まし時計！

■ 寝る時間

時 分

「寝る子は育つ」は科学的にも本当！

■ 夕食の時間

時 分

一家団らん、楽しい時間

■ お手伝い

どんなお手伝いをしますか？

■ 本を読む時間

時 分から

家族で読書コミュニケーション！

■ わが家のルール

わが家のルールを書きましょう！

家庭で本を読んでいますか？

こどもに本を読んであげていますか？

- 本は、こどもに想像力や考える力を身につけさせ、豊かな感性や情操などを育みます。
- ゲームはゲームの世界にこどもを閉じ込め、現実の世界での解決力を奪います。
- テレビやゲームをやめて、毎日少しでもこどもと本を読んでみませんか？
- こどもと図書館に行ってみませんか？本を与えるだけではなく、親が本を読む姿を子どもに見せることがこどもを本好きにすることがわかっています。

読み終わった本のことを、こどもと話し合しましょう。

- 同じ本を親子で読む「読み比べ」や、絵本などの「読み聞かせ」は、親子のコミュニケーションを育みます。
- 親子のコミュニケーションは、こどもの不安感を和らげ、学校生活への適応を助けます。
- 新しい生活が始まろうとしている今、ぜひ家族で本を読みましょう！